

# THE STORY of KAMONOHASHI & SALASUSU

「子どもが売られない世界」の  
先を目指して



Written by  
青木 健太  
Kenta Aoki

2002年、東京大学在学中にかものほしプロジェクトを村田、本木とともに設立。2009年からはカンボジア事業を担当し、2018年4月からはNPO法人SALASUSU共同代表・理事長として現地で活動を続けている。

きたカンボジアから簡単に離れるイメージが湧かず、自分が本当に何をやりたいのかも含めて、何度も何度も検討を重ねた。

雇用創出の事業から、自分らしく生きられる人材を育て上げる事業へ

「コミュニティファクトリーで働く女性たちとの対話を重ねて分かってきたことは、あと少しのところはどうしても脆弱な環境を抜け出せないこと。特に印象に残っているのは、素晴らしい就業の機会をつかんだのに、新しい環境に馴染めずあと一息のところまで辞めてしまったある女性の葛藤だった。これまでに約10年間、ものづくりを通じてひとつづつくりしてきた経験こそ、これからのカンボジアの社会に役

立てていくべきものかもしれない。雇用機会が増えていくカンボジアで、私たちが価値を出すべき点は雇用創出ではなく、雇用機会と女性たちの橋渡し役として、「あと少し」を乗り越え、より自分らしく生きられる人材を育むことではないか。そんな思いで、かものほしとして「子どもが売られる問題を解決するための活動は終了しても、新たなNPO法人として自立し、事業を継続したい」と強く思った。

「子どもが売られない世界」の先を目指して

しかし、現場の混乱は想像以上だった。なぜかものはしは撤退するのか。存続は可能なのか。不安を抱えて辞めるスタッフもいた。スタッフとの対話を繰り返し、希望も困

子どもが売られない世界をつくる  
認定NPO法人 かものほしプロジェクト

インドでの問題解決に、より一層注力。

SALASUSU

カンボジアで、新しいミッションの実現に向かって活動を継続。

「行動し続ければ、実現したい世界はつくれることができる。かものほしで学んだそんな思いを胸に、子どもが売られない世界の先にある、もつともっと一人一人がワクワクと前向きに自分の人生を生きられる世界をつくるため、次の一年も努力を重ねていきたい。

そして、私たちにとって、NPO法人SALASUSUとして最初の一年がなんとか終わった。振り返ってみると、正直順調に進まないことも多く波乱万丈な一年だった。スタッフも死に物狂いで頑張ってくれたが、いかにこれまでかものほしに守られていたかを痛いほどに突きつけられた。しかし、その一方で私たちが実現したい未来に向けて、これまでにない新しいチャレンジをたくさんすることもできた。

2018

かものほしからの自立を実現  
「コミュニティファクトリー」が10周年を迎える

2015

カンボジア事業の自立を決断

2014

カンボジア社会の発展とともに子どもが売られる問題の被害は減少傾向に

2009

子どもを「買わせない」ための警察支援を開始

2006

「コミュニティファクトリー」の立ち上げに着手

2002

かものほしプロジェクト設立

カンボジアという国の問題が解決に向かう中で、自分たちがすべきことは何か

2002年にかものほしとして活動を始めたころ、もつとも子どもが売られる問題の状況がひどかったカンボジア。少しでも問題解決の力になりたいと、子どもを売らせない活動、買わせない活動を現地で地道に続けてきた。そして、活動を始めて約10年が経った2013年ごろには、カンボジアの国の状況が大きく変化。少しずつ子どもが売られる問題の状況は改善傾向にあった。

「子どもが売られない世界をつくる」このミッションを掲げる中で、カンボジアで問題の状況が改善してきたのであれば、事業をどうしていくべきなのか。より状況のひどいインドに団体として注力すべきという一方で、カンボジアにもまだ解決すべき社会問題はたくさんある。これまでカンボジアで長らく活動を続けてきた中で、私たちがこの国に貢献できることは何だろうか。個人的にも、ずっと活動して

難も皆で共有し、少しずつ少しずつ、理解を育んできた。何度も心が折れそうになったが、先の見えない状況でも、力強くともに乗り越えたいと言ってくれるメンバーが増えていき、最後には皆で自立を決めることができたと思う。



Life skill training

ものづくりを通じて  
自立的に生きる女性を育てる

**村**に雇用を創出し、子どもが売られるリスクを軽減する事業として運営してきたコミュニティファクトリー。現在は、女性たちが生きる力(ライフスキル)を身につけ、次へ羽ばたいていく人材に育てる事業として変化しています。ライフスキルとは、簡単にいうと「頑張るための技術」。日本では義務教育や日常生活の中で、物事に取り組み姿勢や、適切な人間関係を築くための振る舞いを自然に身につける

機会が多くありますが、カンボジアにはそうした機会がないまま社会に出る女性が多くいます。その結果、良い企業に就職できずとも長く続かず、脆弱な環境から抜け出すことが難しくなってしまうケースもあるのです。

私たちは工房で行うトレーニングや、ものづくりの現場を通じて、女性たちが経済的・精神的に自立して生きていくライフスキルを身につけ、社会へ羽ばたいてい



独自開発したトレーニングの、カンボジア企業や政府、NGOへの展開が本格的にスタート!工房だけでなくカンボジア全土へ、そして世界へライフスキルを届けることを目指します。



2018年7月に新入生10人を迎えました!また、トレーニングを受けた7人の女性たちが卒業生として、新しい仕事をスタートしました。

SUSU = 「がんばって」という思いを込めて  
カンボジア人女性、商品を手にする皆さま、  
そして関わるすべての人の、人生の旅を応援する

SALASUSU



# LIFE JOURNEY

人生の旅を応援するブランド  
SALASUSU



1-DAY TRIP TOTE

2019年春夏の新作をリリース!  
新しく10商品が出来上がりました



3-DAY TRIP TOTE

**作**り手や使い手、関わる人すべてが幸せになるサイクルを、ものづくりを通じて実現した。「SALASUSU(サラスー)」は「LIFE JOURNEY(人生の旅)」をテーマに、作り手と使い手が互いの人生を応援するような関係性を紡いでいくことを目指しています。一つ一つの商品のラベルには、工房で働く作り手の女性たちの名前が記されたスタンプが押されています。スタンプを押すことで、女性たちは「自分の作った

ものが世界の誰かに届く」という実感を抱いています。購入してくださった方には工房へのフリーパスチケットをお渡しし、いつか商品を持ってカンボジアを訪れてほしいと願いを込めています。作り手と使い手が顔を合わせたとき、どんな変化が起きるのか。その瞬間を楽しみに、女性たちと商品を作り続けています。

10 New Items

CLUTTER-FREE  
POUCH

**ONLINE STORE**  
SALASUSUオンラインショップ

salasusu オンライン 検索

<http://shop.salasusu.com>

**MONTHLY SUPPORTER**  
月1,000円~のサポーター会員を募集中!

salasusu サポーター 検索

<https://www.school.salasusu.com/supporter>

**SNS**  
最新情報はFacebook, Instagramから!



「作り手」と「使い手」を繋ぐしかけとしてのスタンプ。一つ一つ、女性たちの手によって大切に押されています。



2018年度の工房訪問者は約2,000人!  
20人がチケットを持ってきてくれました。

渋谷ヒカリエ、阪急うめだ本店、博多阪急など  
全国15箇所で開催限定ショップを実施!  
デザイナーの菅原(左)とブランドマネジャーの横山(右)も  
ショップでお客さまをお迎えしました。